

関西大学リビングラボ



DATA

- **主な連携先・メンバー**
吹田市／摂津市／国立循環器病研究センター／医薬基盤・健康・栄養研究所やパートナー協議会参加団体・企業
- **活動地域**
大阪府吹田市・摂津市(北大阪健康医療都市[健都])／大阪府内各所
- **活動期間**
2019年度～継続中
- **活動資金**
パートナー協議会参加会費 他

活動の目的

- 1 オープンイノベーションの仕組みを活かして新たな商品、サービス、政策などの社会的価値を創出する
- 2 オープンイノベーションの拠点創出による産学官民の連携機会の拡大を目指す



連携にいたる経緯

国立循環器病研究センターと関西大学の包括連携協定締結を契機に、健康まちづくりのための研究開発、成果の社会実装を行っており、北大阪健康医療都市を活動の出発点としつつ、幅広い課題に産学官民が取組む拠点として2019年度に設置し運営する。

活動内容

関西大学リビングラボは、市民・生活者を中心に、企業や地方自治体、大学や研究機関が連携する共創の場であり、新たな商品やサービスの開発、地域課題の解決に向けた取組みを行うオープンイノベーションシステムである。これを円滑に進めるため、未来デザイン工房、共創カフェ、ヘルスケア倶楽部で構成する。

【未来デザイン工房】

ヘルスケアに関する活動テーマ・課題ごとにプロジェクトチームを設け、未来の社会・技術、ライフスタイル等の予測情報のもと、共創、開発、試作、評価のプロセスを運営して、解決策を得る。

【パートナー協議会】

市民・生活者、企業、経済団体、金融機関、地方自治体、大学・研究機関等の広範な参加を得て、「共創カフェ」を主催し、ヘルスケアについての潜在的なニーズや課題の発見、課題解決のデザイン、共創メンバーを見つける。

【ヘルスケア倶楽部】

市民・生活者の参加により、健康づくりの支援プログラムを提供し、参加者の協力により、商品やサービスの開発などの社会的価値向上のための実証事業に取組む。

活動の成果

- 1 リビングラボ設置によるヘルスケアに関連する共創機会を創出
- 2 北大阪健康医療都市の産学官民連携プラットフォームにリビングラボの仕組み構築提案

今後の課題・目標

- 1 オープンイノベーションを推進するために必要な共創人材育成プログラムの創設・運用
- 2 ENoLL(国際的なリビングラボのネットワーク)の効果的共創手法を研究

教員紹介



■ 環境都市工学部 教授

北 詰 恵 一
Keiichi Kitazume

専門は、社会基盤の費用便益分析、土地利用・交通モデルの開発、公共事業評価、地域再生のあり方などを研究し、公民連携に関わる活動をしている。「健康と環境の好循環」を構築するための研究における影響・効果計測、モデル開発、行動変容促進を手掛け、それを実践して効果を高めるための社会システムの構築を目指す。